

進む浄土ヶ浜観光への道

県政第一線

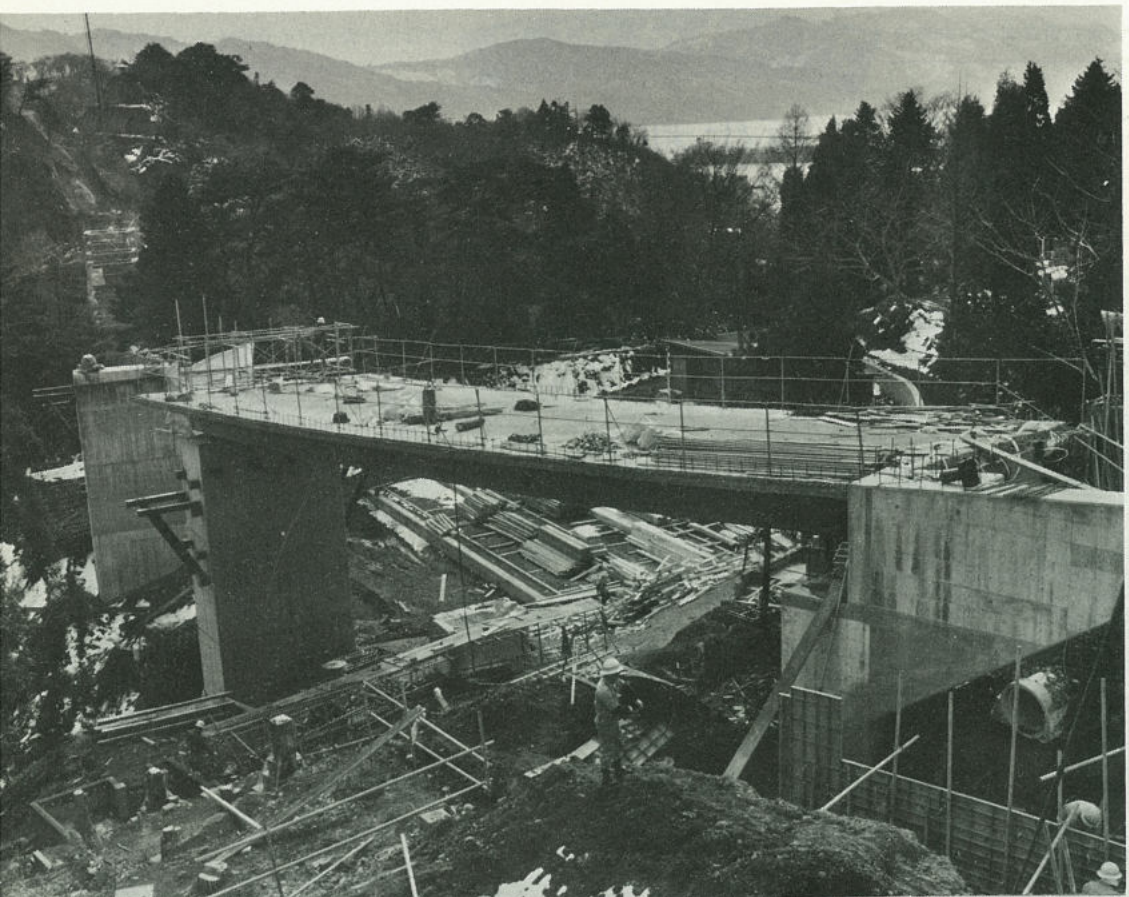
浄土ヶ浜有料道路
建設事務所



誠意を尽くして。計画変更などに伴い、補償の打ち合わせもまだ続く。



順調に進む建設工事。工事概要は、延長1.7キロ、幅員7メートルの二車線道路（52年8月1日オープン予定）。

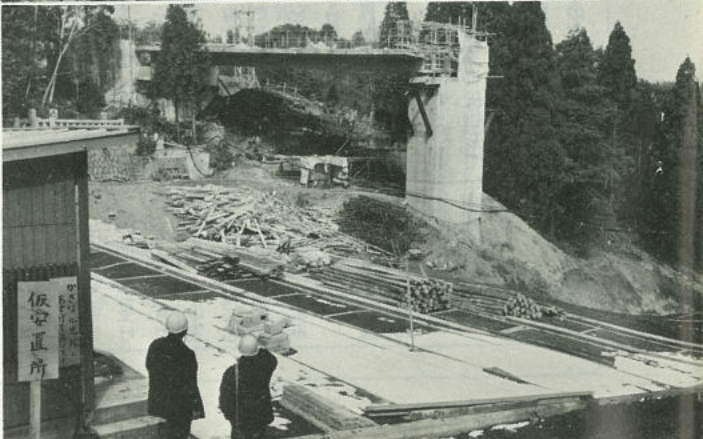


有料道路の4分の1の距離は、3つの橋。最大の難関、第1号橋(延長295メートル)の建設も軌道に乗ってきた。

進行状況をチェック。現場との打ち合わせは、工事を進めるうえで最も重要だ。



国道四五号線に直結する第三号橋は、有料道路の入口。浄土ヶ浜への最もわかりやすい近道だ。



第一号橋の橋脚部分にかかるお墓の数は百にも及ぶ。代替墓地も造成した。

陸中海岸国立公園の拠点として知られる、宮古市浄土ヶ浜。その浄土ヶ浜に、今、新たな交通体系が敷かれようとしている。

それは、自然度日本一を誇る三陸海岸保全への方策であり、浄土ヶ浜への観光需要に対応した交通網の確立でもある。

有料道路の建設は、昭和四十九年四月から始まった。担当は、県企業局所管の「浄土ヶ浜有料道路建設事務所」。路線決定に当たっては、国立公園地内であることから、集団施設計画に基づき、自然公園の全体的、高度な利用形態のなかで慎重に進められた。

路線は、国道四五号線から剛台までの延長一・七キロ。剛台からは市道浄土ヶ浜観光線に結ばれ、交通網の一体化が図られる計画だ。

開設のねらいは、①観光客への利便(複雑な観光ルートの解消) ②地区内の交通渋滞の緩和(都市計画的な要素) ③園地の利用規制と保全を図ることの三点。

工事の概要をみると、幅員七メートルの二車線道路、完成予定が五十二年七月。総

事業費は、用地買収も含め、十二億五千万円となっている。

工事の特徴としては、「橋」の占める割合が非常に大きいこと。全体延長の約四分の一が三つの橋によって占められ、その工事費だけで総事業費の約五割にも及び、割高の工事とさえなっている。

それとともに、蛸ヶ浜に面した第一号橋が、基地の上を通過せざるを得ないなど地形的にも工法上の制約を受け、難工事となっている。

職員は、高橋所長以下三人。各々、工区を受け持ち、毎日、現場の進行状況と図面のチェックなどに忙しい。当初は工事用道路もなく、国立公園地内での工事、しかも墓地のなかでの工事ということで、神経を使えばななかったという。しかし、それらの問題も解決されてきており、工事は順調に進んできている。

浄土ヶ浜は、これから観光シーズンを迎える。そして今、新たな浄土ヶ浜への道としての期待を担い、五十二年八月一日オープンを目指して工事が進められている。